

短期大学学生調査 (JCSS) とは

Japanese Junior College Student Survey
2008年度より開始

・研究開発機関
短期大学基準協会調査研究委員会
大学生調査研究プログラム (JCIRP)

* JCIRP (Japanese Cooperative Institutional Research Program) 同志社大学の山田礼子教授をリーダーとするプログラム
アメリカのUCLA高等教育研究所の実施するCIRPを模範



短大生調査データからわかること(学修成果のベンチマーク)

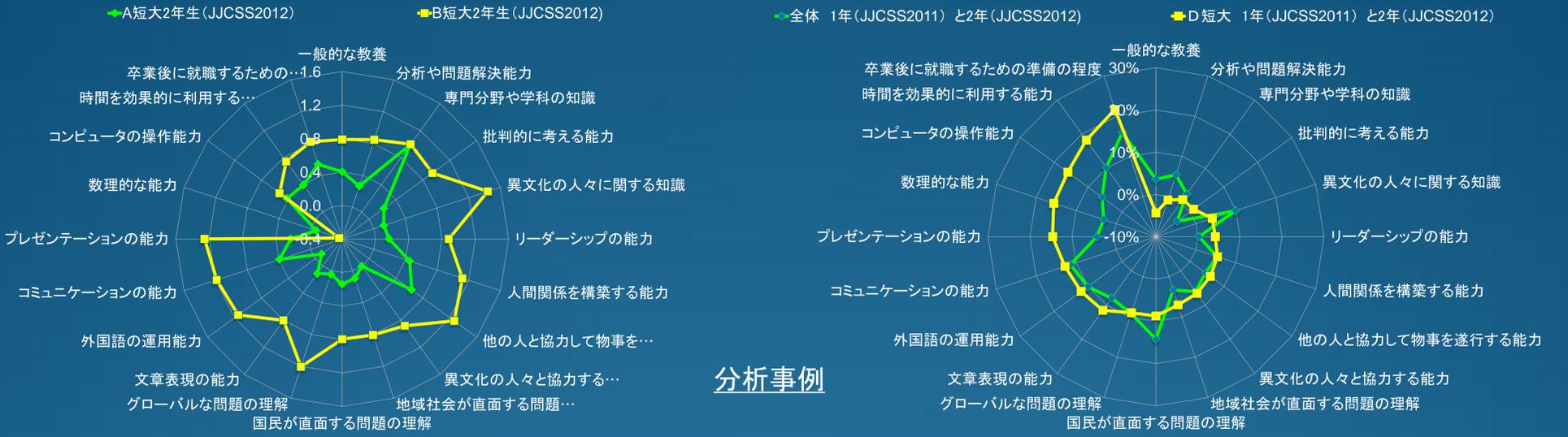


図: 2年生の入学時点からの能力の変化状況(A短大とB短大の比較)

A短大とB短大(JCASS2012)の2年生の能力の変化を比較
大きく減った-2、減った-1、変化なし0、増えた+1、大きく増えた+2
として点数化し、その合計点を人数で割ったデータを利用

【A短大とB短大の比較】
数理的な能力 +, 専門分野が学科の知識 =
残りの18項目は全てB短大が上回っている

学校間の差 = 特色ある教育は可能であることを示唆

1年生と2年生の入学時点からの能力の伸び率の差(全体とD短大の比較)

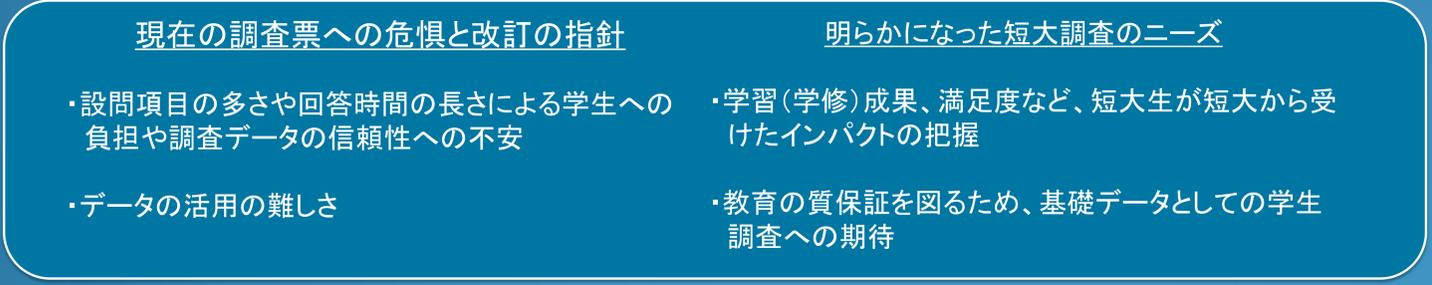
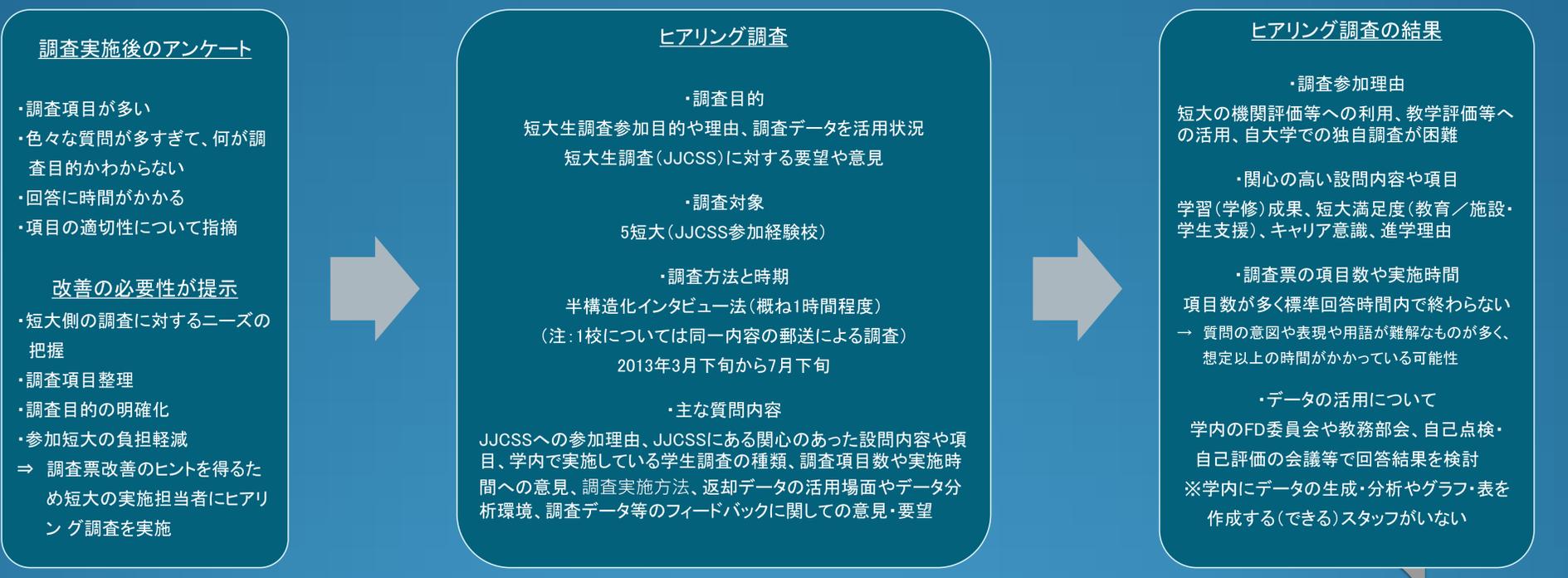
D短大と全体の1年生と2年生の伸び率の差を比較
データは、「増えた」及び「大きく増えた」と回答した者の割合を利用。
2年生の伸び - 1年生の伸び = 伸び率

(+ プラス)
卒業後に就職するための準備の程度
時間を効果的に利用する能力
コンピュータの操作能力
プレゼンテーションの能力

(- マイナス)
国民が直面する問題の理解
異文化の人々に関する知識
分析や問題解決能力
一般的な教養

特徴や課題の明確化

新調査票の作成に向けた取組み



新調査票の作成に向けて
-調査のコンセプトを明確化し、より短大の実態に即した調査票へ-

リサーチベースの調査から問題解決型の学生調査への転換
自己点検・自己評価および教学・学生支援サービスの改善への利用
各短大に対する調査結果の分析レポートを作成する試み

日本の短期大学の実情に合った調査票へと更なる発展
調査項目数の削減・ニーズに合った調査項目の追加・語句の修正



考察とポイント